入　賞　作　品

【作　　文】

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　がんばれ、さぼうダム　」

鹿児島県　南九州市立大丸小学校　１年　末永（すえなが）　和心（わこ）

５がつに、１ねんせいから４ねんせいまでいっしょに、さぼうダムのこうじげんばのけんがくにいきました。

さぼうダムにいくのは、はじめてだったので、どんなところかなあ、おみせみたいなところかなあとおもいました。

さぼうダムにつくと、さぎょうふくをきたおじちゃんたちが６にん、にこにこわらいながらまっていました。

「さぼうしていち」とかいてあるかんばんのまえで、おはなしをしてくれたおじさんが、

「だれのおとうさんか、わかる。」

と、わたしにはなしかけてきました。

マスクをつけたおじさんのかおをみて、ほいくえんでいっしょのクラスだったそうたくんのおとうさんだとわかりました。

そうたくんのおとうさんにあんないされて、わたしたちは、さぼうダムのすぐちかくまであるいていきました。さぼうダムは、とてもおおきくて、どっしりしていました。

「このこうじがはじまったころに、そうたがうまれたんだよ。」

と、おじさんはおしえてくれました。あかちゃんだったわたしたちも、いまでは１ねんせい。さぼうダムのこうじというのは、ながいねんげつがかかるんだなあとおもいました。

ダムのうえのほうには、たかいきがたくさんありました。おおあめがふって、どしゃくずれがおきたり、きがたおれてきたりしたときに、このダムが、まもってくれるんだとおもったら、ちかくにいってなでなでしたくなりました。

７がつに、しずおかけんのあたみしというところで、「どせきりゅう」さいがいがおこりました。テレビのニュースで、ちゃいろのつちが、かわのようにながれてくるのをみました。そして、そのつちのかわは、はやいスピードで、いえやくるまをおしながしていきました。

あっというまに、おおきないえやくるまが、つちのなかにのみこまれていくのをみて、びっくりしました。あんなにかんたんにながされていくなんて、こわいなあとおもいました。

たくさんのひとがなくなったり、ゆくえふめいになったりして、かぞくのひとたちは、きっとかなしいだろうなあとおもいます。わたしは、だいすきなかぞくがとつぜんいなくなったら、かなしくてかなしくて、まいにちないているかもしれません。

「ひなんくんれんはしていたけど、まさか、ほんとうにさいがいがおこるとはおもっていなかった。」

と、インタビューされたしょうぼうだんのおじさんは、ざんねんそうにはなしていました。

さぼうダムは、わたしたちのいのちをまもるために、がんばってくれているのだとおもいます。あのさぼうダムのこうじがおわったら、またけんがくにいって、おおきなこえでおれいをいいたいです。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　私にできること　」

鹿児島県　薩摩川内市立東郷学園義務教育学校　５年　篠原（しのはら）　菜緒（なお）

「バリバリバリッ、ドッゴーン。」

７月 10 日の夜、私は毛布を頭からすっぽりとかぶり、ベッドの中で丸くなった。はげしい雷の音。暗いはずの部屋が、雷の音とともに、ぱっと明るくなる。その度に、となりで寝ている妹のことが心配になった。「早く朝にならないかな。」そう思いながら目を閉じていたら、朝になっていた。

「おはよう。」

寝不足気味で、ふらふらとリビングに向かうと、いつもと違う光景が目に飛びこんできた。庭に大きな池ができていた。私があっけにとられていると、あわただしく歩いてきた母が言った。

「おはよう。着替えて。部屋の片付けを手伝ってちょうだい。じいちゃんたちが、うちに避難して来るから。」

大雨で，川内川がはんらん危険水位をこえ、避難指示が出たそうである。私は、「避難」という母の言葉を聞いて、少し怖くなった。

しばらくすると、祖父母やいとこの家族がたくさんの荷物と共に、避難をしてきた。池になった庭には、仕事で使っているトラックなど、全部で６台もの車が停められた。いつもと違う様子に、私は少し戸惑ってしまった。

学校では、避難訓練の時に、東日本大震災のことを教えてもらったことがある。大きな地震と津波で、多くの人々が、大事な家や家族を失ってしまった。川内川がはんらんすると、多くの人が同じような経験をするかもしれない。私の家族もそうなるかもしれない。そんな不安が頭をよぎった。その時、父の言葉を思い出した。

「この家はね、土砂くずれや水害の心配のない場所を探して建てたんだよ。菜緒が生まれて２カ月も経たないうちに、あの東日本大震災が起きてしまったからね。」

父は、よくこの話をしてくれた。私は、自分の家で、家族を守ることができるのだと思うと少し安心した。そして、家族みんながそろうということは、こんなにも心強いのだと感じた。

しかし、避難してきた祖父の顔は、元気がないように見えた。きっと自分の家のことが心配で仕方ないのだと思った。テレビでは、どのチャンネルも、大雨のことばかり伝えていた。

「大雨特別けい報、最大限のけいかいを。ただちに命を守るための行動を。」

そんな言葉が何度もくり返されていた。この言葉を聞くと、私はまた不安になった。しかし、このニュースのおかげで、みんなが「避難しないといけない」と思う。そして、川内川が本当にはんらんしたときに、命が助かるのであれば、大切なことだと思った。

また、ただ不安になっていても仕方がないと思い、

「私に、何かできることない。」

母にたずねた。それから、ご飯の準備を手伝ったり、いとこのお世話をしたりして過ごした。気付いたら夕方になり、川内川の水位も落ち着き、はんらんの心配もなくなった。私は、心の底からほっとし、体の力がぬけるような気がした。

「ありがとう。」

その言葉と共に、祖父母やいとこたちが、笑顔で帰っていった。

その日の夜は、となりでねむる妹の顔を見ながら安心してねむることができた。

私は、今回の経験で、災害の怖さを知った。その一方で、家族で一緒にいることの心強さも実感できた。災害は、いつどこで起こるか分からない。その時に、最大限できる行動をとることや、もしものときのために、しっかり備えておくことが大切であると気付いた。そして何よりも、何も起こらない日常が一番幸せだと感じた。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 最優秀賞

「　災害への対策　」

鹿児島県　姶良市立重富小学校　６年　林（はやし）　杏奈（あんな）

私は，令和になって，特に大雨による自然災害がたくさん発生していると，ニュースなどから感じるようになりました。

今年に入り１番大きかった災害は，静岡県熱海市で発生した豪雨による土砂災害です。熱海市では，大規模な土石流が発生しました。山の頂上付近から，およそ２キロにわたって家や人を飲み込みながら，相模湾まで土石流がとう達しました。この土石流で，改めて災害のおそろしさを知りました。自衛隊や警察そして消防の人たちがそうさく活動を行っていましたが，大量の土砂がせまい地域に流れ込んだため，そうさく活動は難こうしていました。また，大人数でそうさく活動をしていましたが，なかなか土砂が取り除けなかったので，想像をはるかにこえる大規模災害だったことがよく分かりました。この土石流をもたらした原因は，降り続いた長雨だったと考えられます。熱海市では，土石流が発生する３日前から大雨が降り続いており，降り始めからの雨量が 400 ミリをこえる記録的な大雨でした。この大雨で，多くの水をふくんだ地ばんはくずれやすい状態でした。さらに，山頂のしゃ面付近は，建設現場などから出た土が運び込まれ，その盛り土も，被害を大きくした可能性があると考えられています。

全国各地では，線状降水帯と呼ばれる大雨の被害も起きています。鹿児島，宮崎，熊本の３県に，線状降水帯が発生し，各地で大雨が降りました。線状降水帯とは，激しい雨を降らせる積乱雲が連続して発生し，線状につながって長い時間，雨が降り続くことです。

今の時期は，入道雲がたくさんの水分を運んで，突然激しい雨を降らせることがあります。今年の夏，鹿児島県に緊急安全確保が出たとき，姶良市は大きな被害はありませんでしたが，薩摩川内市や伊佐市などは川がはんらんしたり，道路がかん水したり，大きな被害が出ました。同じ県でも被害の大きさが全くちがうので，私が住む町もいつ災害が発生してもおかしくない状態なのだと言えます。２年前，私が住む家の近くを流れる川があふれたことがありました。私の家に被害はありませんでしたが，そのことがきっかけで，大雨が怖くなり，自然災害のおそろしさを肌で感じました。大雨によるしん水被害や土砂災害は，自然現象なのでいつどこで発生するか分かりません。しかし，大雨による被害を減らすことはできます。

私たちが，大雨の時にまずやることは，事前に雨雲レーダーを見て情報を集めることです。いつ，雨雲が接近するかわかると，大雨が降る時間帯が予測できたり，ひ難の準備をスムーズに行うことができたりするからです。また，ひ難場所だけではなく，ひ難経路を確認することも大切です。安全な道を通ってひ難することで，二次的な被害も防ぎ安全にひ難することができます。もう１つ大事な事は，同じ地域に住んでいる高齢者などに，状況を伝えること，そして，声かけをすることです。ニュースでは，地域の声かけで命が助かったという事例がありました。私たちも，周りに住んでいる人たちと，声かけをすることで，１つの命を救うことができるかもしれません。

鹿児島県でも記録的大雨が降ることがあります。いざ，災害が発生した時，被害を少しでも減らせるように，ふ段からひ難経路やき険か所を頭に入れて，いろいろな災害対策をしようと思いました。そして，全ての方々が安全で安心して暮らせる世の中へしていきたいと思います。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞　優秀賞

「　大切な命のために　」

鹿児島県　鹿児島市立福平小学校　３年　齊藤（さいとう）　貴心（きこ）

今年も８月６日がきました。この日がくると毎年母が，
「８・６水害があった日だね。」
と言います。私はこの８・６水害のことを知りません。母にその時のしゃしんを見せてもらうと，私も通ったことのある道や町は水にしずんでいました。天文館にある祖父母の会社には，この日にどこまでしん水したかテープでしるしがつけてありました。私の頭までつかるくらいの高さで，とてもこわく感じました。祖父はかたまで水につかりながら，会社から家まで帰って来たそうです。生きて帰れて本当に良かったです。でも，この大雨では土しゃくずれや川のはんらんがあちこちで発生して，多くの人びとが命をうばわれたり，けがをしたりしたそうです。こうつき川にえ戸時代からかかる５つの石橋のうち，新上橋と武之橋が流失しました。あんなに大きくて立ぱな橋が流されてしまうほどに水の力とはおそろしいものだと知りました。

先月には，しずおか県でも雨がいっぱいふった後に，いず山土しゃさい害がおこりました。山から流れてきた土石流が家や車をおし流すえいぞうは，まるでえい画を見ているかのようで，げん実とは思えませんでした。家の中にいた人や外を歩いていた人は大丈夫か心ぱいになりました。どうなったか気になったので調べてみると，22 人も亡くなっていてまだゆくえ不明者が５人もいました。この５人がぶ事に助かっていたらいいです。学校で配られたぼうさいノートには，土石流がおこりやすいのは，１時間の雨りょうが 50 ミリい上で滝のようにふる時と書いてありました。ひなんくんれんの時は，気をつけようと意しきするけれど，雨がふらない日が続くと頭から消えてしまいます。そこでもう一度私たちが気をつけることを家族で話し合ってみました。まず私に出来ることは，①天気よほうをきちんと毎朝チェックする。②大雨のよほうの時は，できるだけ外に出ない。③道が川のようになったら高いところにひなんする。④私たちの住む町のきけんな場所を調べておく。ぼうさいノートにもこれらのことをメモしておきたいと思います。

いつも私はさい害のニュースが流れると，こわくて目をそらしてしまいます。考えるのもこわいです。でもぼうさいについてどんな行動をとればいいか正しく知っておけば，命を守ることが出来るかもしれないし，みんなを守ることが出来ます。大切な命のために，つねにぼうさい意しきを持ってすごしたいです。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 優秀賞

「　自ぜんさいがいについて　」

鹿児島県　曽於市立財部小学校　３年　川畑（かわばた）　陽葵（ひまり）

わたしは，さいきんテレビで見たしずおか県あた海市でおきた土石りゅうさいがいのニュースを見て，とてもびっくりしました。雨が長くつづくと地面が弱くなって土石りゅうとして山からながれてくるえいぞうは，とてもこわいと思いました。また，かごしまや近くの県でもいろんなさいがいがおこっていることをお父さん，お兄ちゃんに教えてもらいました。

かごしまでは，毎年たくさんの台風が通っていろんなひがいがおこっています。きょ年９月にかこさいだいと言われていた，台風 10 号がきたときは木がたおれたりくま本県では，きょ年の７月に人吉市で大雨によるこうずいひがいで川があふれてたくさんの家に水が入ってしまったそうです。

こういう自ぜんさいがいは，とつぜんおこることが多くてどうしたらいいかわからなくなると思います。だから，日ごろから安全たいさくを考えることが大事だよとお父さんが教えてくれました。

まずは，「自分からきけんな場所にいかない」です。雨がふっている川や台風のときに外にでないなど，自分でできる安全たいさくをとりたいと思います。次に「いざというときにすぐにひなんできるようにする」です。自分がすんでいる所があぶなくなったらすぐにひなんできるようにひなん場所を調べておくことが大事だとしりました。ちなみにたからべのひなん場所を調べたらたからべ小学校もひなん場所になっていてびっくりしました。また，すぐにひなんできるようにテレビなどで，さいがいじょうほうを調べることも大事だと思います。さいきんでは，けいたい電話にちょくせつさいがいメールが入るようになっているそうです。いろんなじょうほうをしっかり見て，行動したいと思います。

自ぜんさいがいは，とてもこわいものだけど，日ごろから安全について考えながら生活していきたいと思います。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　過去から学ぶ　」

鹿児島県　喜界町立喜界中学校　２年　松田（まつだ）　くらら

私の祖母の家には、私と私の家族の写真が載った何年か前のカレンダーが貼ってある。そのカレンダーは、半分がふやけて茶色く汚れている。祖母になぜ汚れているのかと聞くと、

「まだくららが小さい時に家の裏の山が大雨で崩れた時に家が壊れて、その時に雨水、泥土が家の中まで入ってきて、その時にこのカレンダーのところまで泥が上がってきたんだよ。」

と教えてくれた。この茶色く汚れたカレンダーにはこんな物語が、刻まれているんだ、とすこし驚いた。いつだったか忘れたが、祖母がこの土砂崩れの事でテレビに出ていたことを思い出した。その時、私の母は私に

「おばあちゃんはね、この土砂崩れのせいで違う家にしばらく住んでてね、その後も家に入った泥を出したり家を直したり大変だったのよ。」

と教えてくれた。でも、正直私はまだ幼くてその時の記憶は全くと言っていいほど覚えていなかったため、そんなに土砂崩れのことについて深く考えたりはしなかった。しかし私が小学生の時に地図帳の１番最後のページを開くと全国で今まであった被害の大きかった自然災害のページを見つけた。その時私は、思わず息をのんだ。祖母の土砂災害にあった直後の家の上空から撮った画像が載っていたのだ。私は、この土砂災害のことについて詳しく知りたかったため、祖母に聞いてみた。ギシギシギシー。2010 年 10 月 20 日午後７時過ぎ、寝室にいた祖母は激しい雨音の向こうに何かがきしむような音を聞いた。「変だな。」山がある西側の窓を開けた瞬間、道向かいの民家の小屋が赤土の土砂に押しつぶされた。ぼうぜんとする祖母の耳に次の瞬間、ごう音が響いた。同時に家全体を衝撃が襲う。とっさに隣の居間に逃げ込んだ。大木や電柱が祖母のいた寝室の窓と壁をぶち破り押し寄せ、祖父母は外に出た。２階建ての家半分を赤い土砂と無数の大木が覆っていた。寝室は全体がひしゃげた。直撃を免れた部屋も濁流で水浸しだった。一夜明けた 21 日。祖父や私の父は家の片付けに追われたそうだ。家は、土砂崩れにあう４年前の３月に、祖父の退職金で建てた念願の新居だったそうだ。私はこの話を聞いてとてもショックだった。身内でこんな大変なことが起こっていたのに、何も知らずにのんきに過ごしていた私が憎らしくなった。祖父母は、この土砂崩れのあった家に今も住んでいるが、次また土砂崩れが起こるのか、誰にも分からない。私達が分かるのは起こる可能性は決してゼロではないということ。今年の夏に入ったばかりの頃、静岡県熱海市の伊豆山で土砂崩れが起きた。急な出来事だったので、私はとても驚いた。死者は現在 26 名だそうだ。事故直後は死者数よりも行方不明者の方がとても多かったが、日に日に行方不明者数は減っていき、死者数が増えていた。私は、もし奄美であった土砂崩れで祖父母が気づかずに逃げ遅れていたら今どうなっているのだろうか、と考えてしまった。

土砂災害というのは、起こる予兆なんてないし、どれだけの規模なのか、どこで起こるのか、そんなのは誰にも分からない。しかも、ここ日本は土砂災害の多さは世界から見ても多いそうだ。なぜ、ここ日本が土砂災害が多いのか調べた。結果は、日本は国土の７割が山地であるため、河川は急勾配で流れも速く、氾濫などが起きやすい地形だということ。また、活発な地殻変動によって複雑・不安定な地形・地質が形成され、温帯多雨という気象条件から、土砂災害が起こりやすくなっているそうだ。私達は、土砂災害を止めることは不可能だ。しかし、逃げることならだれだってできる。命を守るためなら、全力で。そのためには、安心・安全に逃げることを最優先するのが鉄則だ。さらに、普段からハザードマップで避難場所を確認するといい。そして、防災リュックなども準備しておくといいそうだ。自分自身は被害にあっていなくても、いつ、なにが、どこで土砂災害が起こるか分からない。だからこそ、万全な対策で、今ある素敵な日常を大切に過ごしていきたい。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文中学生の部 県知事賞 最優秀賞

「　土石流災害の恐ろしさ　」

鹿児島県　鹿児島市立伊敷台中学校　１年　中村（なかむら）　陽香（はるか）

「熱海土石流、死者 19 人に」
ある日の朝、新聞を手にすると、こんな見出しが目に飛び込んできました。なぜこんなに多くの命がうばわれてしまったのか、どんなことが起きたのかなど、いろいろな考えが私の頭の中をめぐりました。新聞記事をくわしく読んでみると、7 月 3 日の午前 10 時 30 分頃に静岡県熱海市の伊豆山地区で土石流が発生したこと、住宅が流されたり、多くの人が亡くなったりしたことが分かりました。さらに記事を読み進めると、土石流が発生した場所は、ハザードマップで、土石流が発生する恐れがあると認められた「土石流危険渓流」だったといいます。自然災害に対する対策はなかったのか、なぜ危険な場所だと分かっているのに早めの対策がとられなかったのかと私の中で再び疑問がわいていきました。

もし、このような災害が起こってしまったらー。私の住んでいる鹿児島県では何か、対策や防災施設などがあるのだろうかと思い、考えてみました。すると、昨年訪れた桜島の桜島国際火山砂防センターを思い出しました。土石流による被害を無くすために、どんなことを行っているかをこの施設では学びました。

学んだことの１つ目は、ワイヤーによる土石流の検知です。これは、３本のワイヤーで土石流の発生や規模を検知し、情報を送るというものです。私は、このような仕組みがあることを知り、素早く、簡単に土石流を検知することができれば、少しでも速く土石流に備えることができたり、下流にいる人々への避難をうながし、被害を防ぐことができたりするのではないかと思いました。それに、このような簡単な仕組みであれば、多くの所に設置することが可能ではないでしょうか。

２つ目は、自然な川の形を変えた砂防の整備です。私は、その内の１つである野尻川を見学しました。この川の整備は、川幅を広げ直線的にすることで、土石流を安全に海へ流せるようにしています。このような対策があれば、土石流による被害を少しでも無くすことができると思いました。しかし、このような形を変えた川や砂防ダムなどは安全性は高くても、工事費がかかってしまったり、工事期間がかなりかかってしまったりするなどの課題もあるのではと考えました。

私は、この施設を訪れたときに、パソコンで土石流の映像を見たことが印象に残っています。山の頂上部分からにごった水と土砂が勢いよく流れてきていて、とても恐ろしいと感じました。そして、このような土石流が住宅をおそってきたら、住宅の倒壊などの被害、人的被害もかなり大きいのではないかと考えました。また、土石流などの被害あわれた方々は、身体的なダメージだけでなく、経済的なダメージもかなりあるのかもしれないと感じました。

土石流などの自然災害の恐ろしさを知り、自分達の備えも大切だと思いました。そこで、私の住んでいる地域のハザードマップを改めて見直してみました。すると、私の家から数メートル離れた所まで、急傾斜地の崩壊の警戒区域に指定されていることが分かりました。すぐ近くまで、命の危険が迫っているのだと考えると怖くなりました。また、近くで土砂災害が起こる可能性があるということは、自分も被害に巻き込まれることもあるのかもしれないと思い、日頃から災害に対する備えが必要だと感じました。例えば、家族と話し合ったり、最寄りの避難所を確認したりすることが大切だと思います。

このように、１人１人が自分の身に起きる可能性のある災害をしっかりと理解し、いざというときにとまどったり、困ったりすることがないようにしてほしいです。そして、大切な命は、周りの人と協力して守ってほしいです。だれか１人の防災意識や、災害に備えようという気持ちと行動によって、周りの人の意識を変えることができるかもしれません。今回の熱海の土石流は予測不可能だったけれど、この災害を教訓に、２度と同じような尊い命が失われることがないように私は願っています。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

「　僕たちが忘れてはいけないこと　」

鹿児島県　鹿児島市立鹿児島玉龍中学校　２年　濱田（はまだ）　卓志（たかし）

令和３年７月３日午前10時半頃、静岡県の熱海市で、今までに死者が22人、行方不明者が６人も発生した衝撃的な土砂災害があった。当時、日本は西日本から東日本にかけて停滞する前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込んでおり、大気の状態が非常に不安定になっていたため、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な豪雨となっていた。勿論、熱海も例外ではなく、記録的大雨を記録していた。そして、７月３日午前10時半頃、その土砂災害は起こってしまった。住宅131棟がその土砂災害によって半壊、もしくは全壊してしまったのだ。このように熱海の街に壊滅的な被害をもたらした土砂の大半は何と、山の谷間にできていた開発による「盛り土」だった。土石流の土砂の総量は約５万55㎥で、多くの住宅などを巻き込みながら流下していく様子は、国内外のメディアで大きく報じられた。僕もその日、この土砂災害のニュースを見たとき、とても大きな衝撃を受けた。土砂が住宅地を流下していく様子は、まるでこの世のものとは思えず、これまでに僕がニュースで見た地すべりの中では最大規模のものだった。

日本における土砂災害の件数は、何と１年間に1319件にものぼっている。つまり、いつどこで発生するか分からないのだ。僕はこれらの土砂災害が身の回りで発生したときにどのようにしたら自分の身を守れるのか、そしてどのような対策がされているのかをいろいろと調べてみた。どのような対策がされているのか。１つ目に挙げられるのは法枠工だ。法枠工というのは、崖くずれの危険がある斜面をコンクリートの枠で押さえることでくずれにくくする工事のことである。多くの場合、１つの１つの枠の中に、芝や木などの植物が植えつけられる。これは、草や木などが生えていない斜面は、雨の力で土がけずり取られたり、ひびが入ったりして、くずれやすくなってしまうが、表面を草や木でおおうことによって、雨が降っても、直接地面に雨が当たらず、くずれにくくなるからである。２つ目に挙げられられるのは、擁壁工だ。擁壁工というのは、がけくずれの危険がある斜面を、コンクリートの壁で押さえたり、くずれてくる土砂を受け止める壁や柵を斜面から少し離れたところにつくったりする工事のことである。でも、法枠工も擁壁工も、あくまで自分たちがもしものときに、急に備えられるものではない。自分たちがもしものときのために行動するための策は主に３つあると僕は考える。１つ目の策は、日頃から、ハザードマップを確認しておくことである。ハザードマップとは、河川の氾濫、堤防の決壊、土砂災害などの被害を最小限にくい止めることを目的として、被害が予想される区域や避難場所、避難経路などの各種情報を誰が見ても分かりやすいように地図上に表したものだ。日頃から避難場所や避難経路を把握しておくことで、もしものときに、被害が少しでもおさえられるのではないだろうか。

２つ目の策は、梅雨や豪雨のときは、土砂災害の前兆現象に敏感になることである。土砂災害の主な前兆現象としては、地鳴りや山鳴りがする、沢の水が急に濁ったり、渓流の流れに流木が混ざる、雨が降り続いているのに渓流の水が急に減る、焦げ臭いにおいがしたり、渓流の中で火花が散る、山の斜面に亀裂が発生する、山の斜面から小礫がパラパラと落ちてくる、木がバキバキと裂けるような音がする、樹木、電柱、墓石などが傾く、など様々で、特に、大雨が続いているときはいつも以上に周囲に敏感になることが大事だと思う。

３つ目の策としては、自然災害が起こったときのために、非常食などの準備をしておくことである。これは、土砂災害だけでなく、その他の様々な災害にも共通している。やはり、自然災害は、日頃からの備えが大切なのではないだろうか。

このように、自然災害は、いつ、どこで起こるか分からない。でも、日頃から備え、意識し、シミュレーションしていると、被害はおさえられる。熱海の教訓を生かして、今の自分たちにできるのは、日頃からの備えだと身をもって感じた。「今、突然自然災害が起こるかもしれない」と杞憂に過ぎない程の覚悟を持って生きていきたいと僕は思う。日頃からの備えで命は守れる。そのことを皆さんも忘れないでほしい。

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

「　命を守る行動とは　」

鹿児島県　鹿児島市立伊敷台中学校　１年　藤井（ふじい）　香予（かよ）

今年，７月３日午前10時半頃，静岡県熱海市で，大規模な土石流が発生した。ニュースなどで放送された映像には，黒い土砂が勢いよくたくさんの家をなぎ倒していく様子が映し出された。私は，この映像を見て「うそでしょう。」と言葉を失った。私は，「住民の方々の命が無事でありますように。」と祈ることしかできなかった。７月27日現在，死者22名，行方不明者５名となり，土石流の悲惨さを，痛感した。

また，私たちの住んでいる伊敷でも，忘れられない大きな水害がある。それは，鹿児島市内をおそった８・６水害だ。これは，平成５年の８月６日に起きた水害のことで，土砂崩れが各地で発生し，１日最高雨量は，259ミリ，死者48名，行方不明者１名，重軽傷者52名と多くの方々が被災した。私の家も，庭山が崩れるという被害にあった。その時，家にいたおばあちゃんは

「ドーンッ。」

という大きな音に驚き，裏山の様子を見に行くと，土砂が車庫ギリギリまで流れ込んでいたそうだ。長年，住んでいて初めての事で，

「とても，おそろしかった。」

と言っていた。

今では，「急傾斜地崩壊危険箇所」に認定され，土砂崩れ防止の柵が着工された。そのおかげで，安心して生活することができている。

私は，今年，発生した熱海市土石流で大勢の被災者の方々がいらっしゃることという事，また，平成５年に鹿児島市で発生した８・６水害の事を考慮し，今まで以上に日頃から家族と防災対策を強化したいと思う。

例えば，テレビで天気予報をこまめに見たり，海の波の高さや，今までの総雨量を確認する。また，大雨警報や避難指示が発令されたら，できるだけ早めに避難を開始するなど色々な防災対策ができる。しかし，土砂崩れや土石流は，突然発生する可能性もある。その危険性がある場合は，崖に近い部屋で過ごすのではなく，できるだけ安全で丈夫な離れた部屋で待機するように行動するなど，考えて行動することが大切だ。

最近は，地球温暖化による異常気象も問題視されている。地球温暖化と大雨の関係性について調べてみると，大雨の発生数が増加傾向にあるのは，地球温暖化が関係している可能性があるそう。日本の観測結果の分析によると，過去100年において，自然災害につながる可能性のある，日降水量が100ミリ以上，200ミリ以上の降水が発生する日数は増加傾向で，鹿児島市で発生した８・６水害でも，日降水量が200ミリを超えていた。この事から，降水量が増えれば増えるほど，大きな水害につながることがあるという事が分かった。また，地球温暖化予測実験では，「日降水量が100ミリ以上などの大雨の発生数が日本の多くの地域で増加する」「６月から９月に現在よりも降水量が増加する」という予測結果が出ている。日本は，集中豪雨や台風が多発する夏期の防災が大きな課題となってくると考えられている。

土石流や崖崩れ，地すべりなどの土砂災害は，大雨だけの影響だけで発生する事ではないと思う。日本は，他の国と比べ，４つのプレートの上に位置しているため，地震が非常に発生しやすい。そのため，大きな地震が発生しても，すぐに行動できるように準備をしていると安心だ。

このような，自然現象は，私たちでは止めることはできない。でも，対策はする事ができる。私たちは，何ができるのかを考え，次につながる事が大切だと私は思う。私が過ごしているこの時も，復興に向け，活動を続けている人たちがいる事を忘れずに，１日１日を感謝して生きていきたい。また，命を守る行動を，１人１人が理解して自然と動いていけるように，今一度，家族とも話し合っていきたい。

お 知 ら せ

１　入賞作品（絵画・作文）は，鹿児島県のホームページで公表しています。

【鹿児島県砂防課のホームページ】
https://www.pref.kagoshima.jp/ah08/infra/kasen-sabo/sabo/dosyasaigaikaigasakubun.html

上記ホームページは「鹿児島県　土砂災害　絵画・作文」で検索が可能です。

２　「土砂災害防止に関する絵画・作文」は令和４年度も募集する予定です。
　募集の案内は，鹿児島県砂防課から令和４年５月下旬に県内の小・中学校に送付するほか，鹿児島県ホームページ（上記）にも掲載します。
　来年度も多くの応募をお待ちしています。

３　問合せ先
鹿児島県土木部砂防課管理係
E-mail：boushi-gr@pref.kagoshima.lg.jp
Tell　　：０９９－２８６－３６１６